

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		上野 正実		所 属		農学部 地域農業工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	(1)学部科目(農業生産システム論、バイオマス工学、農業エネルギー工学、環境計測工学、圃場機械学等)を担当する。基本的な考え方と最新の話題等を盛り込み内容の充実に努める。(2)大学院担当科目(生産システム工学演習等)では基礎的内容を正確に理解させる。				0.30	(1)学部科目(農業生産システム論、バイオマス工学、農業エネルギー工学、環境計測工学、圃場機械学等)を担当した。基本的な考え方と最新の話題等を盛り込み内容の充実に努めた。(2)大学院科目(生産システム工学演習等)では基礎的内容の正確な理解に努め、修士学生を国際会議で発表させた。				
研究	0.30	(1)研究論文3報以上の投稿を目指す。(2)ICT農業および植物工場など先進研究を推進する。(3)受託研究を中心にバイオマスなどを利用した低炭素社会構築に関する研究を実施する(沖縄TLO事業等)。(4)新しい研究領域の開拓に努める。(5)国際共同研究や国際会議での研究発表(ISSCTブラジル大会(6月)等)を行う。				0.30	(1)研究論文10報以上投稿した。(2)ICT農業および植物工場など先進研究を推進した。(3)受託研究を中心にバイオマスなどを利用した低炭素社会構築などの研究を実施した(沖縄TLO事業等)。(4)モデルベース制御に関する新しい研究もスタートした。(5)国際共同研究や国際会議での研究発表(ISSCTブラジル大会(6月)等)を行った。				
社会貢献	0.20	(1)バイオマス利用・温暖化対策、農業振興・環境保全に関する普及・調査活動による市町村等の支援。(2)サトウキビ品質取引業務等の支援。(3)JICAの集団研修「熱帯バイオマス・バイオ燃料利用」を実施。(4)国際的な研究支援活動の推進(ポツワナ、マーシャル等)。				0.20	(1)バイオマス利用・温暖化対策、農業振興・環境保全に関する普及啓発・調査活動による中城村・読谷村・西原町・宮古島市等の支援。(2)サトウキビ品質取引業務等の支援。(3)JICAの集団研修「熱帯地域における持続可能なバイオマス・バイオエネルギー利用」を実施受入数8名+2名。(4)国際的な研究支援活動の推進(ポツワナ、中国等)。				
管理運営	0.10	教育委員・FD委員など学部運営等に関する役割を果たす。				0.10	教育委員・FD委員など学部運営、防災センター運営委員等の役割を果たした。				
進路指導	0.10	学部学生および大学院生の進路相談に日常的に乗り、様々な情報提供・紹介を行う。また、年次指導教員として懇談会等で指導を行う。				0.10	学部学生および大学院生の進路相談に日常的に乗り、様々な情報提供・紹介を行った。また、年次指導教員として懇談会等で指導を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鹿内 健志	所 属		農学部	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部担当科目(農業情報工学, 農業電気電子工学概論等), 大学院講義(農学研究の方法)を担当し, 学習支援システムWebclassを活用し, 予習・復習を効果的に進める授業を実施する。3年次指導教員として指導・相談を行う。			0.30	学部担当科目(農業情報工学, 農業電気電子工学概論等), 大学院講義(農学研究の方法)を担当した。また, 本年度から実施の「教職実践演習」について, 県内高等学校と協力し実施することができた。3年次指導教員として卒論発表会等の指導や学習相談に対応した。		
研究	0.30	科学研究費による共同研究を継続し進める。成果を学会・論文等で発表する。			0.30	科学研究費による集落営農・生産法人支援のための作業改善システムの開発の研究成果について研究を進め, 農業食料工学会などで報告した。		
社会貢献	0.10	公開講座を実施する。琉球大学生協理事として学内の福利厚生改善に努める。			0.10	公開講座(エクセルによる数学シミュレーション)を8月10日に実施した。		
管理運営	0.10	農学部の安全衛生委員, 広報委員等として委員会活動等に積極的に参加する。亜熱帯フィールド科学教育センター農林教育情報部門長として, 亜熱帯フィールド科学教育センターの農林教育情報に関する運営を推進する。			0.10	農学部の安全衛生委員, 広報委員, 教育委員等として委員会活動を行った。また, 化学物質管理規程の制定に協力した。		
進路指導	0.20	3年次指導教員として就職・進学活動の適切なサポートを行う。			0.20	3年次指導教員として, 年次懇談会等を通して就職・進学活動のサポートを行った。大学院講義「農学研究の方法」の中でキャリア教育を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良英三	所 属		農学部	職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部担当科目でバイオシステム工学実験Ⅰ, 外国語文献購読等を担当する。学生の理解度に合わせた解説を行い、基礎知識・技術の習得ができるように努める。学部学生, 修士学生が卒業研究に必要な実験や学習の補助を行う。			0.30	担当科目「バイオシステム工学実験Ⅰ」, 「外国語文献購読」を担当し, シラバスに沿って授業を行った。講義時間外, オフィスアワー以外の時間でも質問を受け付け, 学生の基礎知識の習得ができるよう努めた。また, 卒業研究や修士学生の指導補助を行った。		
研究	0.40	これまでの研究成果について、国内外で研究発表を行う。また、海外研究者との交流をはかり、質の高い研究の推進に努める。研究成果を論文等にまとめ、成果の公開と研究発展に努める。			0.40	4月から12月までの期間、デンマークに留学し、コペンハーゲン大学にて計測情報解析に関する研究を行った。これまでの成果をとりまとめ、3編の研究論文として発表した。また、サトウキビ技術者国際会議にて口頭発表を行った。		
社会貢献	0.10	県内企業, 試験研究機関等と連携し, 共同研究を積極的に行う。特にサトウキビの価格取引に関して, 沖縄県と鹿児島県の製糖関係者と連携し, 品質評価システムを運用する。また, 県内市町村やJA沖縄等と協力し, マンゴーのブランド化に関する研究を推進し, 産地強化のための情報を提供する。			0.10	沖縄県やJA等と連携して沖縄産果実の高品質化に向けた事業を実施し, 光センサーを用いた品質保証技術に関する研究を行った。また, 製糖工場で実施されるサトウキビ品質評価システムを日本統一の分析手法として構築し, その管理・運用に関して関係者と事業を推進した。		
管理運営	0.10	部局内の委員会活動をはじめ, 管理運営活動に積極的に参加する。			0.10	環境・交通・施設等委員会などの委員会活動を行うとともに, 学部の管理運営に関する活動に積極的に協力するよう努めた。		
進路指導	0.10	学生の進路指導に努める。また, 3, 4年次には求人情報を提供するなど就職活動の支援を行う。			0.10	就職を希望する学生には新入社員の採用を予定している県内外の企業を学生に紹介した。進学を希望する学生には大学院入学試験について説明し, その対策についてもアドバイスをを行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 一人	所 属		農学部 地域農業工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.40	前期(応用数学、地域環境基礎演習I、水文気象学、外国後文献、数学・力学演習)、後期(水資源工学、水利環境学)を担当する。		0.40	左記の授業科目について、担当者としての責務を果たした。さらに、今後講義における評価についての工夫を行う必要がある。			
研究	0.30	査読付き雑誌への投稿を行う。共同研究(ソルガム栽培実験、フィリピン流域調査)において責務を果たす。		0.30	共著者としての論文が受理された。大学院指導学生の研究については当初予定より若干の遅れがあり、ペースアップが必要である。			
社会貢献	0.10	沖縄県および総合事務局の委員会においての責務を果たす。		0.10	左記の委員としての責務を果たした。			
管理運営	0.10	農学部教育委員会委員としての責務を果たす		0.10	左記の委員としての責務を果たした。			
進路指導	0.10	学生の進路、特に進学に関する進路指導を行う。		0.10	学生の進路指導において、大学院への進学指導を行ったが十分な説明ができなかった点は反省の余地がある。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瀬戸内 秀規	所 属	農学部 地域農業工学科	職 名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部担当科目として、材料・コンクリート工学、応用力学、工学の力学、造構学総合演習、卒業論文をJABEEの教育目標に沿った水準、内容で提供する。修士課程においては、地盤工学特論、土質改善学特論、生産基盤工学特別研究Ⅰ、Ⅱ及びⅢを担当する。		0.30	定期的な中間試験の実施ならびに添削により受講生の学習達成度を確認するとともに、JABEE目標の水準の授業を展開した。また、配布資料の充実および証拠資料の作成などに努めた。		
研究	0.30	自然災害による地形の被災状況を巨視的に予測し得る個別要素法を拡張した地盤地形モデルの構築のための基礎研究を展開する。科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けて取り組む。		0.30	地盤地形モデルの構築のための基礎研究として、地形を構成する最小単位となる球形個別要素に適用し得る力と間隙比の構成モデルを考案した。また、考案した構成モデルを実測値と照合し、本構成モデルの妥当性を検討した。2013年度公益信託宇流麻学術研究助成基金(自然科学・技術部門)「土粒子集合体の力学モデルの構築」の外部資金を得た。		
社会 貢献	0.10	研究成果の学会誌への投稿1編および学会発表1編を進めることにより社会貢献に努める。 オープンキャンパスに向けた研究室の紹介等の準備および対応に取り組む。		0.10	学術雑誌に、1編の論文が掲載され、1編の論文を投稿した。 また、第16回土木学会応用力学シンポジウムにて研究成果を公表した。 大学オープンキャンパス、卒業論文ポスターセッションに関する準備公開を行った。		
管理 運営	0.25	教授会、学会会議および代議会等の各種委員会に参加し本学部の管理運営に努める。		0.25	代議員会、教授会議、学科会議に参加して大学運営に携わった。また、センター試験等の試験監督業務を行った。		
進路 指導	0.05	卒業論文受講生3名の学生の指導教員とし、て学生の生活状況確認および卒業生の就職の斡旋を行う。		0.05	本学科4年次学生の教育及び進路指導を行った。また、4年次卒業生の就職活動の斡旋や卒業論文および生活状況等について指導した。		
	0.00			0.00			
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲村渠 将	所 属	農学部	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.50	(1)学部教育においては、URGCCおよびJABEE基準を達成する。また、学習の理解が深まるように、講義、演習および実験を連携させる。 (2)大学院教育においては、担当する授業科目において、流体力学の基礎方程式をわかりやすく解説する。加えて、基礎方程式の数学的性質と流れ現象との関係を理解させる。		0.50	(1)学部教育におけるURGCCおよびJABEE基準を達成できた。しかし、講義、演習および実験の連携では、授業計画の進み方が不揃いになったため、教えるタイミングがずれた。次年度では、重要ポイントを厳選し、教えるタイミングを逸しないように授業計画を工夫する。 (2)大学院教育では、流体力学の基礎方程式をわかり易く解説できた。しかし、ベクトル解析の解説に時間を費やし過ぎたため、流れ現象の取扱いが不十分になった。次年度では、教材を作り直してベクトル解析を要領よく解説し、流れ現象の取扱い内容を充実させる。	
研究	0.40	(1)昨年度からの研究(水路実験)を継続し、データを蓄積する。 (2)今年度から新たに始めた研究(土壌物理性改良実験)の予備調査を完了させ、今後の精密調査の計画を立てる。		0.30	(1)水路実験を継続して実施することができ、研究内容をより充実させるデータを蓄積することができた。次年度も、新しい計測を含めながら、研究を継続する。 (2)土壌物理性改良実験の予備調査を完了することができた。その結果を次年度の現場調査に活用する。	
社会貢献	0.04	産官が行う赤土等流出防止に関する取り組みを、赤土流出研究の専門家として支援する。		0.05	(1)平成25年度沖縄県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会の委員を務めた。県内各地域における地域組織の取り組み状況を把握するとともに、今後の課題について意見を述べる事ができた。 (2)赤土流出防止対策に関する水理実験について県内某建設コンサルタントの依頼に応じ、実験結果を提供することで、県内某地区の赤土対策計画に寄与することができた。	
管理運営	0.05	予算委員会、入試委員会、広報委員会、地域貢献支援委員会および琉球大学教務事務電算化委員会の委員会活動と亜熱帯フィールド科学教育研究センターの兼務教員活動をとおして、琉球大学の運営が円滑になるように貢献する。		0.14	各委員会活動および兼務教員活動に取り組み、円滑な運営に貢献することができた。ただし、琉球大学教務事務電算化委員会は開催されなかったため、その活動には取り組まなかった。	
進路指導	0.01	就職や進学に関する相談に真摯に応じる。		0.01	就職相談に応じた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	中野 拓治		所 属	農学部 地域農業工学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、測量学(分担)、測量学実習(分担)、応用測量学(分担)、農村計画学、地域環境基礎演習Ⅲ、農地及び防災工学演習(分担)等を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、大学院研究科目として、農地工学特論等を担当する。2年次指導教員として指導・相談を行う。		0.30	学科科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、測量学(分担)、測量学実習(分担)、応用測量学(分担)、地域農業工学演習(分担)、農村計画学、地域環境基礎演習Ⅲ、農地及び防災工学演習(分担)、外国文献講読(分担)を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、また、大学院科目として、農地工学特論、農学研究最前線(分担)等を担当し、シラバスに沿って講義を実施した。2年次指導教員として指導・相談を行い、学生の学習指導と進路相談・生活指導助言等を通じて丁寧に対応した。		
研究	0.30	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を投稿する。さらに、科学研究費や共同研究・助成研究等の実施を通じて研究成果の実用化に向けた取り組みを目指す。また、水環境学会、土木学会、農業農村工学会等の委員・幹事等としての参画を通じて、学外学会活動に貢献する。		0.30	研究関連分野の学会講演会等(地下水学会春季・秋季大会、農業農村工学会全国大会・九州支部大会、水環境学会年会・九州支部講演会・シンポジウム等)で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を投稿し、琉球石灰岩帯水層地下水水質に係る研究論文2編等が農業農村工学論文集等に掲載された。科研費基盤研究C「微生物活動による硝化・脱窒動態の把握と水質形成機構の解明」において、初年度の目標としていた成果・知見をほぼ研究計画どおり得ることができた。また、河川環境管理財団助成研究、沖縄県バイオ産業活性化支援事業(硫酸化細菌による硝酸性窒素汚染地下水浄化技術開発)、微生物等を活用した汚染土壌浄化処理技術開発事業(沖縄県)、沖縄県島しょ型環境システム海外展開推進事業(省エネ型高度処理浄化システム研究開発事業)等への参画を通じて研究成果の実用化に向けた取り組みを実施した。さらに、農業農村工学会代議員、同会農村計画研究部会常任幹事、水環境学会九州支部評議員、日本土木学会西部支部沖縄会委員等を務め、学外学会活動に貢献するとともに、水環境学会シンポジウム実行委員長として、第16回シンポジウム(H25年11月9～11日)を琉球大学で開催した。		
社会貢献	0.15	公開講座「高校生が学ぶ食料と水環境問題」等や出前授業の企画・実施を通じて、高校生等の学外に積極的に農業と水環境の関わり、琉大農学部への役割等を発信する。また、オープンキャンパスにおいて、研究室を公開する。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行う。さらに、放送大学沖縄学習センター客員教授として、社会人を対象とする生涯教育活動に関与するとともに、日本水士研究所や地域資源センターの委託研究員も務め、社会貢献に努める。		0.15	公開講座「高校生が学ぶ食料と水環境問題」や中部農林高等学校への出前授業の企画・実施を通じて、高校生等の学外に積極的に農業と水環境の関わり、琉大農学部への役割等を発信した。オープンキャンパスにおいて、研究室を公開し、訪問した高校生に積極的に学習・研究内容についての説明を行った。放送大学沖縄学習センター客員教授として、社会人を対象とする生涯教育活動に関与するとともに、未来対応型リーダーの人材育成を図るため、放送大学学生による農村地域の環境保全・景観創造活動等の地域実践活動に参画した。また、教員免許更新講習「沖縄島嶼部から食料と水環境問題を考える」及び「沖縄島嶼部から食料と食育問題を考える」を通じて、琉大農学部地域農業工学に関与する科目を提供した。沖縄本島南部地域の地下ダムや農業集落排水施設に関する研究内容を沖縄総合事務局、沖縄県、糸満市土地改良合同事務所、伊平屋村、宮古島市等の関係行政機関に報告・助言を行うとともに、農業集落排水事業推進連絡会議や農業集落排水事業講習会の講師として講演を行った。さらに、新日鉄住友エンジ(株)等の民間企業等と連携して調査・研究活動を実施した。これらの取組等を通じて、技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行い社会貢献に努めた。		
管理運営	0.10	学部・学科の委員等を務め、大学・学部の管理運営に積極的に参画する。地域農業工学科長として、農学部の教育・研究に関わる運営を推進する。		0.10	地域農業工学科長等として、農学部の教育・研究に関わる管理運営に参画するとともに、情報処理センター委員などを務め、大学全体の学務運営にも寄与した。		
進路指導	0.15	公務員志望の学生を対象にした講演会・進路相談会の企画を通じて、学生の進路指導を積極的に行うとともに、技術系コンサルタント会社等の民間関連会社との就職に係る情報・意見交換会等の企画する。また、2年次指導教員として就職・進学活動の適切なサポートを行う。		0.15	公務員志望の学生を対象にして、3回の外部講師(沖縄県庁、沖縄総合事務局職員、沖縄県土地改良団体連合会)による講演会・進路相談会を企画・実施した。また、技術系コンサルタント会社の対象にした講演会・進路相談会を1回実施した。これらの取組を通じて、学生の進路指導を積極的に行い、就職に係る情報提供・支援に努めた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1)本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	黒田 登美雄		所 属	農学部 地域農業工学科		職 名	教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成25年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノルマを果たす(共通教育、学部、教職科目、大学院) 情報科学演習(5コマ)、環境情報科学、情報処理学、環境地質学、環境情報学特論、亜熱帯農学特別演習、亜熱帯農学特別研究。 ・WebClassを利用した教材・資料等の充実を目指す。 ・教員免許状更新講習を担当し、研究成果を授業に反映させる。 ・授業評価結果を基に、学生からの授業に対する意見・要望に対応。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノルマについては、計画どおり情報科学演習(5コマ)、環境情報科学、情報処理学、環境地質学、環境情報学特論、亜熱帯農学特別演習、亜熱帯農学特別研究について果たすことが出来た。 ・WebClassを利用した教材・資料等の充実については、個人のホームページでの公開を重視したため、十分ではなかった。 ・教員免許状更新講習を担当し、研究成果を授業に反映させる。→千葉県立検見川高校修学旅行 生への模擬講義(11月5日)に反映させることが出来た。 ・授業評価結果を基に、学生自らが授業に積極的に参加できるよう毎回課題を課した。 ・福岡大学大学院非常勤講師として「集中講義:地球変動科学特別講義Ⅱ」を行った。 		
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の視点から情報処理教育法について検討する ・平成19年度～平成24年度までの過去6年間にわたり実施してきた入学者アンケート調査の取りまとめ及び解析を行い平成25年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第8回大会)で発表する(AO室兼務教員)。 ・学会活動に積極的に参加(日本地質学会地質災害委員会委員、日本応用地質学会九州支部評議員) ・伊平屋島におけるボーリングコアを用いた花粉分析を行い、完新世以降(過去1万年間)の古環境の復元を行う。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の視点から情報処理教育法について検討する → 十分に検討する時間がなかった。 ・H19～H24年度までの過去6年間にわたり実施してきた入学者アンケート調査の取りまとめ及び解析を行い平成25年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第8回大会)で発表した。また、その成果の一部は「大学入試研究ジャーナルNo24」に論文投稿及び琉球大学アドミッション・オフィス紀要(平成25年9月)に発表した。 ・学会活動に積極的に参加→2013年日本地質学会第120年学術大会に参加し、被災地を見学し、福島第一原発の高レベル放射能汚染水の流出防止対策について検討し、成果は経済産業省ホームページの受付番号「134」として公開した。(http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20131108_01.html)。 ・伊平屋島におけるボーリングコアを用いた花粉分析を行い、完新世以降(過去1万年間)の古環境の復元を行う。→伊平屋島の花粉分析については行えなかったが、「沖縄県史各論編 自然環境」の編集において『第7節 島々の川と水』及び『2 沖縄の古植物』、について執筆した(沖縄県教育庁文化財課発行)。 		
社会貢献	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の各種委員会への参画 農業用ダムの技術検討委員会委員(伊江島地下ダム、中原地下ダム、保良地下ダム)、新石垣空港工法モニタリング委員会委員、新石垣空港事後調査委員会委員、地すべり対策事業計画検討委員会、那覇地方鉱山保安協議会委員、沖縄県史編集専門部会地誌班委員及び沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員として委員会に出席し、意見書等を提出した。 ・日本水土総合研究所客員研究員 伊江島地下ダム、宮古島地下ダム(中原、保良地区)などの調査・設計及び技術的な課題について検討し、報告書の取りまとめを行った。 ・日本国際協力センター(JICE)の依頼でタイ国天然資源環境省の研究者一行(8名)に対して「The present situation of the water demand and supply in Okinawa-jima Island and the possibility of the new water resources development」について講義した(7月5日農学部)。 ・防衛省アドバイザーとして地下水の調査法等について助言した。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の各種委員会への参画 農業用ダムの技術検討委員会委員(伊江島地下ダム、中原地下ダム、保良地下ダム)、新石垣空港工法モニタリング委員会委員、新石垣空港事後調査委員会委員、地すべり対策事業計画検討委員会、那覇地方鉱山保安協議会委員、沖縄県史編集専門部会地誌班委員及び沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員として委員会に出席し、意見書等を提出した。 ・日本水土総合研究所客員研究員 伊江島地下ダム、宮古島地下ダム(中原、保良地区)などの調査・設計及び技術的な課題について検討し、報告書の取りまとめを行った。 ・日本国際協力センター(JICE)の依頼でタイ国天然資源環境省の研究者一行(8名)に対して「The present situation of the water demand and supply in Okinawa-jima Island and the possibility of the new water resources development」について講義した(7月5日農学部)。 ・防衛省アドバイザーとして地下水の調査法等について助言した。 		
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・主目的各種委員会活動への積極的参加 総合情報処理センター運営委員会委員(大学教育センター)、教員免許更新講習実施委員会委員、教員養成運営委員会委員、営利企業役員兼兼業審査委員会委員、AO室広報企画部門長(兼任) 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的各種委員会活動への積極的参加 本年度は、特にAO室広報企画部門長(兼任)として、県内高校(北山高校、与勝高校、沖縄尚学高校など)への入試説明会及び県外で開催された全国公立・有名私大相談会2013 in 東京、横浜などに数多く参加した。 		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・農学部教員として授業等においてキャリア教育を行い就職支援をサポートする 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・農学部教員として授業等においてキャリア教育を行い就職支援をサポートする → 環境情報学及び環境地質学の授業において、これから重要となるであろう分野に関する職種及びそのニーズ等について紹介したが、就職支援を積極的にサポートすることはなかった。 		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 真也	所 属		農学部地域農業工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	土地環境保全学、土の物理学、地域環境演習Ⅱ(分担)、工学の力学(分担)、地域環境実験Ⅰ・Ⅱ(分担)等を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。地域資源環境工学特別講義(博士課程)の一部および農村環境保全・防災学特論(修士課程)を担当する。			0.35	土地環境保全学、土の物理学、地域環境演習Ⅱ(分担)、工学の力学(分担)、地域環境学実験Ⅰ・Ⅱ(分担)等を担当し、JABEE基準を満たす講義を行った。また、教職科目の地学概論、地学基礎実験の一部を担当した。また、農村環境保全・防災学特論(修士課程)を担当した。学生の学会発表を奨励し、国内外の学会にて11件の発表を行った。		
研究	0.35	修士課程の学生、学外共同研究者と共に研究を行い、研究成果について、論文投稿・公表(レフリー付学術誌に2編以上)、学会発表(国内外において3回以上)を行う。また、外部資金獲得に向けた「新素材アンカーの開発に関する研究」に関して現地試験を実施する。			0.35	論文2編(国内誌1, 国際誌1)および学会発表15件(国内13, 国外2)により研究成果を公表した。Geological Society of Americaより、Fellowの称号を授与された。		
社会 貢献	0.10	行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行う。また、県内の土木技術者のための技術交流会を主催する。沖縄総合事務局、沖縄県、市町村等の委員を適切な範囲で務める。			0.10	民間企業からの依頼を受け、研究成果を生かした技術指導を行った。沖縄総合事務局の「地すべり対策事業評価検討委員会委員」および「道路防災ドクター」を務め、沖縄県「南部東道路整備」への助言を行った。		
管理 運営	0.10	各種委員会委員の役割を果たす。			0.10	全学の組織見直しプロジェクトチームの委員およびイノベーションWG委員を務めた。また、農学部の入試委員会、国際農学プログラムワークショップ実行委員等を務めた。		
進路 指導	0.10	地域農業工学科の学生を対象に、講演会「仕事と人生」を分野主催で開く。			0.10	学生対象の講演会「県内農業土木コンサルタントの仕事」を県内企業8社の担当者10名を講師として開催した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			